

A—50、味覚テストの検討（第7報）

Triangle test の試料提出順序について

大谷女子短大 ○山田 光江
丸山 隆子

1. 条件を変えて調理した2種の食物の呈味差を検べる手段として、3点比較法（triangle test）は2点比較法に比べてパネルの識別力を掴み得る点では秀れているが、他方に於いて試料の提出順序が6通りにもなるので順序の効果を打ち消すためにパネルを6等分してテストを計画するのが普通である。然し、得られるパネルの人数が必ずしも6の倍数にならない場合があり、5人以下の判定人が判定の容易な組で唸味するのと、判定の困難な組で唸味するのとでは全体の結果が逆になる場合も考えられる。そこで、提出順序によって判定の難易が異なる

か否か，異るとすればどのような順序が判定困難であるかなどを検べることを目的とした。

2. 行ったテストは本学学生の中で他の方法による味覚テストで秀れた成績の者を選び，その中から味覚テストや食味に関心のある者を募ってレギュラーパネルとし，テストは1日1回，週に2回位の間隔で実施して，その結果を個人別に，或は試料間の差の有無別に，提出順序による正答率の相違を 2×3 分割表による χ^2 検定によって解析した。

3. その結果，試料間の差が無い場合には，5%有意で提出順序が標→標→半の組が他に比べて判定が困難であるという傾向を擲んだ。